

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070001195
法人名	有限会社 だんらん
事業所名	グループホーム だんらん
所在地 (電話番号)	福岡県築上郡吉富町大字直江77-4 (電話) 0979-23-1968

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町 北九州ビル8階		
訪問調査日	2008年3月14日	評価確定日	2008年4月22日

【情報提供票より】(平成20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	7 人	常勤	6人, 非常勤	1人, 常勤換算	5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	(水光熱費) 10,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:10ヶ月)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2		4名	
要介護3	2名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 85.2歳	最低	81歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	唐原クリニック / 東病院 / 豊前夢歯科 / さくら診療内科クリニック
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームだんらんは、設立時から「地域密着」を理念に掲げ、地域との協力を重ね今日に至る。それ故、地域交流室を設け(玄関も別途設置)、高齢者交通安全教室や(救命救急時)応急手当教室の場として、積極的に地域に開放している。また地域とは季節の行事・催し・食事会を通して親睦を深めている。家族に対しても同様に一人ひとりの状況を詳しく伝える「便り」に、権利擁護に関するパンフレットや医療情報を同封するなど情報の発信に努めている。管理者および職員は常に個別のケアを心がけ、入居者一人ひとりの健康状態の把握に努め、特に生活機能維持に対しては自室の清掃から始まり、一日の生活の流れの中に無理なく織り込まれており、各自の能力の範囲内でできる事を支援している。職員は定期的に勉強会を実施することで、研鑽を積むことに余念がない。その為、業務実施状況の確認表や、日々の介護記録などは、職員のアイデアで改良が重ねられ、見やすく工夫されている。日々の記録や、自らの仕事を点検する確認表などの記述状況・マニュアルや各種計画書・報告書の整備状況から、職員一人ひとりの意識の高さと、仕事に向き合う真摯な姿勢がうかがえた。本ホームは、「地域密着」の理念のもと、入居者一人ひとりの思いを把握し、希望の実現に努める中で、日々仕事の質を高めている今後が楽しみなホームである。今後は地域の中で認知症介護のノウハウを提供するなど、高齢者ケアの拠点として、より専門的な役割を担っていくことが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では、介護記録用紙の記入スペース一部追加の修正・身体拘束や成年後見人制度の学習・入居者の年1回の健康診断の実施・表札の工夫などが指摘された。それらの課題を職員全員が検討を重ね改善している。その改善に向けての取り組みプロセスが学習の機会となっており高い成果につながっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で実施しサービスの質の向上に努めている。前回の外部評価の結果については、全職員で共有し、話し合いの上改善を図っている。今回の調査では、職員のヒアリング及び資料確認を通して、評価の意義が理解されている点や、前回の指摘事項に真摯に取り組まれている様子が確認できた。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。いつも構成メンバーの殆どが出席し活発な意見交換が行われている。主な議題はホームの行事や検討事項・グループホームの役割についての説明・職員の移動・地域行事への参加などである。特に防災に対する取り組みについては会議で頻りに議論されており、その結果、地震・風水害時の避難場所や火災時の協力など、地域との連携がホームの防災訓練に活かされている。会議の議事録は誰でも閲覧できるようにしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	相談窓口や意見箱などを設置しているが反応は少ない。入居者を家族と共に支え合うためには家族からの情報提供だけでなく、実際に困っている事などを相談してもらう事が大切であると考え、家族との信頼関係を築くために「だんらん便り」で入居者の状況や様子がわかるようにしている。また、家族の意見や意向などを言っていたく機会として運営推進会議への参加をお願いしている。入居者の希望などは家族と共に話し合い解決できるように支援している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームの周辺は学校や保育園・スーパー・公園など普段の暮らしに必要な社会資源が多く、豊かな社会生活が維持できる環境を有している。中学生の体験学習や園児の敬老の日の訪問・ボランティアの訪問などもある。地域住民も高齢者が多く、入居者が身近に感じられるためか、ホームの立地を喜ばれており、自宅で取れた果物や花などを持って来られたりとホームへの協力を惜しまない良好な関係ができています。また、施設も清掃活動や古新聞の回収など住民としての役割を果たし、誰もが気軽に立ち寄れる環境づくりや取り組みを積極的に行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域密着型サービス」の理念の趣旨をふまえた独自の理念が作り上げられている。また特筆すべきは、制度改変前より「地域密着」の発想を基本としている点にある。また、事業開始にあたっては、代表自らの体験をもとに入居者が日常生活と社会生活を安心して維持できるよう「住み慣れた地域での生活支援」を目標に職員と地域住民で支え合う地域密着型サービスを展開している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「地域に向けて」を合言葉に、入居者がその人らしくゆっくりと安心して過ごせるよう、職員には採用時の説明はもちろん玄関に理念を掲示し、日々の業務の中で確認し合っている。また、地域行事への参加や施設内の行事や催し物の案内などで多くの交流の機会を設け、職員や地域の方々に理念の共有・浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、道路愛護には職員も参加している。地域の祭りや文化祭には、入居者と共に参加している。また地域の中学校が職場体験学習の場としても活用している。敬老の日には、地域のボランティア・保育園児の来訪があり、様々な催しと交流が行われ、食事や懇談を通して親睦を深めている。地域の高齢者交通安全教室や、救命救急時の応急手当教室の場として、ホームを地域に開放している。地域の高齢者に遊びに来てもらうため、地域交流室を造り、地域との連携を高めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、全職員で実施しサービスの質の向上に努めている。前回の外部評価の結果については、全職員で共有し、話し合いの上改善に努めている。職員のヒアリング及び資料確認を通して、評価の意義が理解されている点や、前回の指摘事項に真摯に取り組まれている様子が確認でき、改善に向けて意欲的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催ができています。議事録より、ホームの理念や運営方針の理解を高め、活動報告・事故報告などを行い、会議の目的や意義を育んでいる。会議では、参加者の活発な意見交換があり、ケアやサービスの改善につなげている。また、メンバーに地域の福祉施設関係者も参加し、議論の内容も充実している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケースワーカーとの連携を図り、外出時に必要な福祉用具についての相談などを行い、必要に応じて連絡を取っている。町の担当職員は協力的であり、入居者に対する医療・福祉面の対応について困っている時など助言を得て良い成果を得ている。担当者は実状を理解し協力的で相談しやすい関係にある。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、制度の利用はないが、学習会を行い必要に応じて活用できるように備えている。またパンフレットを家族への通信物に同封し、情報提供を行うなど、制度の周知に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に話をしたり、毎月発行の「だんらん便り」の中に個別的な通信欄を設け、担当職員が1ヶ月の入居者の様子などを報告している。服用中の薬や医療面の情報なども同封し発送している。金銭出納については来訪時に報告している。便りが間に合わない変化については、電話連絡をするなど、逐一伝えるように努めている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置すると共に、意見を出しにくい家族の立場を理解し、面会時を利用して積極的な情報提供や意向の把握に努めている。ケアプラン説明時にも要望をうかがうようにしている。重要事項説明書の相談窓口が吉富町の窓口が具体的に記入されていないので次回の改正時などの際に掲載することが望まれる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動についてはホームの質のバランスや職員のステップアップに必要な場合もあるが1名以内としている。離職についてはまず日頃より職員の働きやすい環境づくりを心がけている。しかし、やむを得ない場合もあるので、時期や引継ぎの面で入居者のダメージにつながらないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用は、性別や年齢を理由に採用対象から排除することなく、「その人となり」を見るようにしている。ホームの特徴や理念を理解してもらい、ゆっくり学び合ってその人の個性を活かされ、生きがいを持って働けるようにサポートしている。職員の能力アップについても個別的にステップ・アップできるように研修受講を支援している。法人内でも有意義な勉強会を積極的に開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権尊重は、まずは「人生の先輩として敬うこと」を第一として日々のケアで実践している。個人の人権が尊重されることは安心感につながる事であり、職員に対しても代表・管理者は言葉づかいや態度などに配慮している。また、「現場が教育の場」という観点で、日々のケア全般を通じて、「人権」について学ぶ機会を持っている。ただ言葉だけで難しくとらえるのではなく、実践の中で理解できるよう噛みくだいて説明を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	個々の教育背景を把握し、日々のケアの中で助言・指導を行っている。事業所以外の研修にも計画的に参加させ伝達講習を行い職員全員のケアやサービスの質の向上につなげている。管理者自身も講師として後輩の教育に携わっている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同業者の団体には加入していないが大分県の研修会などには参加している。近隣の同業者と職員間で、互いに施設見学などの交流を行い情報交換に努めている。勉強会については日程調整中である。地域での同業者のネットワークを高めることを期待したい。		勉強会の実施など現状の関係をより深め、情報交換を行うと共に地域に向けての認知症介護の介護教室などネットワークを活かした取り組みが期待される。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入所希望者の家族の多くは家庭での援助に限界を感じてこられる場合が多いので、まずは本人や家族が安心できるよう十分な話し合いの時間をもち、体験入居で10日間ほどホームの暮らしになじんでいただき、納得して入居してもらうように支援している。入居にあたっては、家族の意向もふまえるが、何よりも本人の気持ち・意向を一番大事にするよう努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	「利用者は人生の先輩である」という事を職員全員が共有している。現在では忘れ去られている行事や慣わしなど教えてもらうことが多々ある。行事などを通して、慣習や料理・着物の着付け・戦時中の体験談などを学ぶ機会を得ている。また日常的にも、このような機会を多く持てるように努め、入居者との会話も弾み、思いがけない情報を得るなど暮らしの中での生きがいにつなげている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>何気ない日常の中から出てきた言葉や表情・しぐさからの把握に努めている。介護日誌に記録し職員間で共有している。家族や関係者からの情報も参考にしている。入居者の中には自分の思いを表出されない場合もあるので、何気ない言葉や表情から汲み取り、家族や関係者に相談し、より正確な情報を得るようにしている。アセスメントツールとして、現在、センター方式を一部取り入れ、より本人本位の思いや意向の把握ができるように試みている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>「入居者が自分らしく暮らせる」ことを第一に考え、本人や家族の思いや意見を介護計画に反映させるように努めている。コミュニケーションやADL・医療などの項目からなるアセスメントをふまえ、本人や家族はもちろん主治医・職員との話し合い、意見交換の中から介護計画を立てている。現在、センター方式を一部取り入れ、より本人本位の介護計画が作成できるように努めている。</p>		<p>現在、試みているセンター方式の一部取り入れたアセスメントの精度を更に高め、より深い本人本位の思いや意向の把握が実現できるよう期待したい。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回を基本に、変化に応じた見直しを随時実施している。入所時はまずは入居者が安全に不安なく暮らせることを第一としているが、毎日の記録の一日のわずかな変化や気づきも必ず記録し、申し送りで情報を共有し、必要時は本人や家族・主治医などの意見を参考に計画の修正を行っている。変化のない場合も職員全員の意見を聞いて確認している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>関連事業として小規模多機能型居宅介護施設や有料老人ホームなどがあり、地域で住み続けられる高齢者ケアのサービスを提供している。ホームの地域交流室を利用して警察署の協力で高齢者交通安全教室を開催したり、中学生の職場体験学習の実習場所を提供し、入居者は、オープンな開かれた運営の中で、地域の幅広い年齢層の方々との交流やふれあいを多く持つことができている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が希望するかかりつけ医や他科受診を支援している。基本的に家族同伴としているが、不可能な場合は職員が同行しており、そのことについては契約時に説明している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人の気持ちを大切に、家族の意向を汲みながら急変時には、すぐ対応できるよう医療機関と連携を図っている。ホームにおけるターミナルケアについては慎重に成らざるを得ない状況である。看護師もいるので現在のところ、本人の気持ちを大切にすると共に、家族の意向も考慮しながら、個別に対応していく方針がある。職員間でも話し合いを重ね、方針の共有はできている。実際に重度化したケースについては、職員や医療機関とも話し合いを重ね、受け入れた実績もある。看取りの方針など書類整備が求められる。</p>		<p>認知症の高齢者は一般に他の高齢者に比べ機能低下の速度が速いとされている。重度化や終末期については入居者や家族にはできるだけ早い段階での医師を交えた話し合いの場を持ち、安心して納得したケアが受けられるように支援してほしい。関係者の方針の共有化を一段とすすめるために「看取りの方針」「同意書」などの書類整備が求められる。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>書類等を始め、「個人情報」の管理・取り扱いに留意すると共に、介護面においても、一人ひとりの尊厳を損ねることがないように、日々の生活援助でも慎重な対応を心がけている。個人情報の保護についても法律を遵守している。対応が不相当と思った場合は率直に話し合うように心がけている。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な大まかな1日の流れはあるが、一人ひとりの体調や状態・生活リズムに合わせた支援を行っている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立については、栄養士(同一法人隣接の事業所所属)が、1週間単位で作成している。入居者の要望については、会議で伝える仕組みがあり、入居者の嗜好や状態に応じた食事提供が可能となっている。事業所内で調理は行っていないが、盛り付けや配膳・下膳ができる範囲で入居者と職員と一緒にやっている。入居者と職員は同じテーブルで、一緒に食事が楽しめるようにしている。おやつや行事のお菓子などは手作りしている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的(最低ライン)には週に2回であるが、希望に応じて、または夏場などは毎日の入浴が可能となっている。清潔面の配慮から、足浴・指浴は、毎日行っている。単独の入浴実施(但し、さりげない見守りは行っている)や個人専用のシャンプーや入浴剤を使用するなど、楽しみとプライバシーの配慮もなされている。浴室も整理整頓・使用後の掃除が徹底され驚くほど清潔であった。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	清掃や食事の盛り付けなど生活の中で、各人の状態に応じた役割があり、生活リハビリも兼ね支援している。楽しみごととしては、陶芸や生花・カラオケ・裁縫・おやつ作りなどが定期的実施され、各人の生活歴や趣味・意向に応じた参加ができるように趣味や能力を活かした余暇活動など多面的な活動の支援を行っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	冬場は外出することは少ないが、窓の外に見える通学風景や自動車の流れなどは気分転換になっている。気候が良くなると買い物に出かけたり、近くのお地藏さんへお参りに行ったりと近隣の散策を楽しんでいただけるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	施錠することの弊害を全職員が理解しており、日中は施錠していない。玄関には感知チャイムが設置しており、職員は、さりげなく見守りを行っている。本調査中もチャイムが鳴るごとに全職員が反応し、見守りを徹底しながら対応している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	自主訓練を年2回、消防立会訓練を年2回実施している。内容も日中夜間帯想定訓練・搬送法訓練・初期消火訓練と多岐にわたり充実したものとなっている。また、運営推進会議を通して自治会長や他の協力で避難場所や救助隊の人員確保の協力体制が確保できている。計画書・報告書・マニュアル・緊急連絡網も整備されており、万全な対策に努めている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養士により、高齢者にふさわしい栄養バランスを考えたメニューが準備されている。個別的な対応もなされている。水分摂取については毎日の生活習慣として食事以外に3回ほどお茶の時間を設けており、入居者もそのティータイムを憩いの時間として楽しんでいる。食事や水分摂取量などは個別的に記録し、体調の変化などの観察の材料としている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	外部の騒音を避けるため窓は二重構造としているが、明るい日差しは常に室内にそそくよう設計されている。ダイニングやリビングは入居者が黙視できるように柱など少なくしている。ダイニング・リビング・和室とゆったりしたスペースが確保されている。ここからキッチンで食事の準備や後片づけ・おやつ作りの様子が目や耳・五感で感じられる。各室間には、壁など仕切りが少なく、圧迫感がない。室内には、入居者が活けた花や陶芸作品などがさりげなく並び潤いを与え、清潔感が溢れる居心地の良い空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、本人の使い慣れた物や馴染みの物を持参してもらっている。家具やベッドの配置も本人と相談し、安全面の配慮はもとより少しでも日常生活が自立できるよう創意・工夫がなされている。例えばエアコンの乾燥に対しては濡れタオルを利用・表札は入居者の目線に合わせる・筆筒には衣類の名前を記入するなどである。自分の住まいであることの自覚が生まれる工夫がある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			